
紅蓮天照烈士之神楽

すたび。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅蓮天照烈士之神楽

【Nコード】

N0547BA

【作者名】

すたぴ。

【あらすじ】

更新不定期です。

本作品は和風？な世界観を目指す上で日本史、世界史等に共通する単語が含まれておりますが、史実と本作品での意味合いや使われ方に差異が生じる場合があります。ご了承下さい。

また和風？となっているのは文化水準が和風と言い難く、正式には和風現代混合な世界観です。詳しくは小説内にて明らかにしていきます。

幕府が成立して二百年、誰もが受け入れた平穏や生活が掻き消え始めたのは五十余年前のことであつた。

世は乱世——山賊、海賊、辻斬り、更には妖魔が横行跋扈する時代。町村外での殺しは法では裁けない。

力無き者は何も守れず奪われ殺される。大名の悪政に苦しみ飢え死ぬ者も居れば、賢き大名による治世で平穏に暮らす者も居る。

小さな起爆剤でも投げ込めば、領間での戦など必然に生じ、勝利領は敗北領の金品、女といった戦利品を持ち帰り宴を開く。

皆全て、海外諸国との外交により外来の技術を貪欲に取り入れた幕府の意向が原因である。

アメリカ、イギリス、ドイツ、ロシア、フランス、スペイン、列強国に連なりし極東の国。形式上、幕府が治めし“神の住まう国”四十七ヶ領に分かたれたこの国の名は“神州”——“神州高天原大八島国”

力が全てのこの国で、真に恐ろしき人は人か、妖魔か、はたまた別の何か。

いと雅と見られるか、醜悪と見られるか、烈士達の舞に委ねられることとなるう。

これより、鮮烈なる神楽が幕を開ける。

饗宴の準備はよろしいか——。

開幕の宴―飲み、食べ、悦んで狂え―（前書き）

読もうと思ったださった読者様、はじめまして。この小説を書かせてもらいます“すたぴ。”です。最後の“。”も重要です。すみません関係ないですね。

さて、このすたぴ。の初作品は年齢制限はしておりません。理由としては

- ・現在、直接的な性描写や性交描写は予定していない。
- ・そもそも色々明確に書き続けるのが恥ずかしいです。自分勝手な理由で申し訳ありません。

ですが、やや残酷な描写は予定に入れております。その為、警告タグにもチェックを入れてます。

と言っても明確には描写は避けます。（避けれているか怪しいですが）

この後のページが自分にとってはそれなりの残酷描写です。これより軽い時もあれば重い時もありますが、基準として見ていただければ、と思います。

「これは無理」と思った場合はすぐに読むのをお止めください。また、先程直接的な性描写は予定していない、と書きましたが、世間一般的に見て卑猥な単語を喋らせる予定はあります。まあ、「この巨乳！」とかそんな中学生みたいなのでおそらく大丈夫かと勝手に判断させていただきます。

それでは、後書きにてお会いできることを楽しみにしています。

開幕の宴―飲み、食べ、悦んで狂え―

ああ、また死んだぞ。どうして貴様等優等種はこんなにも脆いのか。疑問に思うだけ無駄であると先刻塵の頭を踏み潰した時に悟った筈だが、こればかりは思わざるを得ない。

死骸が邪魔だな。この俺に邪魔と思わせる存在なぞいらん。故に既に息絶え、床に伏している塵の身体の見やる。そら、あつという間に潰れたぞ。潰れた塵の姿が視認できんな。大方、埃にでもなったか。実に愉快。

愚かなり。今の一連の出来事を見てまだ俺に刃を向ける塵どもがいるか。数はざつくばらんに見て四十はおろう。ああ、見てしまった。また潰れてしまった。血が床を満たしていく。何と素晴らしき光景かな。しかし、そろそろ“首飛ばし”を再開せねば。やはり定期的に塵の皮を、肉を、骨を断たねば欲求不満に陥る。

が、もういない。何だそれは。あれだけやかましかった喧騒はどこにやったのだ塵。本心、塵など切りたくないが、この“殺戮欲求”は仕方がない。しばしの我慢である。

一向に気配がしないので、塵探しへと繰り出すこととなった。途中、“首飛ばし”の際に自らの胴体と永遠の別れを告げた気持ち悪い頭を見つけた。恐怖で顔が歪んでおり、非常に醜かったので踏み潰した。優等種と言えども、醜いものは醜い。当然、嘔き出た血も醜く、質も最悪であった。

最悪と言えば以前、男という塵と女という塵が性交している時に両方の首を跳ね飛ばしてやったことがあった。あれには苛立ちを隠すことなぞ到底出来はしない。繋がったまま転がる二つの肉体から間

歇泉の如く噴き出た血は、今のとは比較にすらならなかった。

そも、何故貴様等優等種が、塵風情が存在する？ この“殺戮欲求”を満たす為に、俺に殺される為に生きているのか？ 否。断じて否。真実は、究極的に“塵は寄り集まって塵同士馴れ合いいたい”から存在しているのだらう。故に絡み、関係を持つ。成程全く理解し難い。優等種が優等種を見て、話し、関わるのは構わん。殺し合うのも、愛し合うのも結構。想像するだけで三回は死にそうだが。

だが、何故俺を見た？ 何故俺に触れ、関わろうとした？ 俺がそんなことを望んだとでも？ 優等種らしい、沸騰した頭を持っているな。妄想癖も甚だしい。俺は俺から始まり俺だけで終わっている劣等種なのだから、誰もいない、何も無い、俺だけで満ちた場所にいたい。その為なら死んでもいい。なのに貴様等、俺に関わったな。その愚行のせいで俺は塵どもを絶滅せねばなくなったのだ。

故に、塵は掃除せねばなるまいて。貴様等俺を見下しているだろうが。そうとも、俺は唯一無二の劣等種なり。故に俺は貴様等を妬んで絶滅させたくなくなってしまう。この妬みは決して消えぬ。俺は悪くない。俺をそうさせた塵どもが悪いのだ。俺以外、万象一切消えて無くなれ。

ああ、いたぞ。その棚に隠れているな。見たくもないので棚ごと割断してやろうとでも思ったが、その棚というのがまた小さい。子供・・・俺と同じ背丈かそれ以下の塵しか入れないであらう。それだけ小さな塵を殺すのは初めてである。故にこの目で見て、この手で殺してやる。劣等種であるこの俺が貴様等優等種に対する最高の賛辞と知れ。

女か。流石は優等種。成長すればこの女は相当な美人になるに違い

ない。結局は塵だが。

俺を見ない。成程気絶しているのか。よくよく見れば両手足が縛られている。幼いながらもこれだけの美しさ、いつ男という塵が欲情し、犯し輪姦すかわからん。そうでなくとも、年を重ねればこの女という塵は男という塵の一物で喘ぎ、淫乱な姿を晒すかもしれない。

ああああ、この女は俺を見ていない。気に入ったぞ殺してやる。

その無垢な顔が誰とも知らぬ男に汚されるなど、許さん認めん消え失せろ。この女は俺のモノだ。今決めた。殺してやるから泣いて悦べ。女、貴様はおそらく塵の中で最も劣等だ。

開幕の宴―飲み、食べ、悦んで狂え―（後書き）

お会いできて光栄です。どうもです。すたぴ。です。

今の残酷描写に楽勝、耐えれた、気にならなかったという読者様がこの後書きを見てくださっていると思います。

正直、これ以上の残酷な描写はほとんど無いかと思われますので、ギリギリ耐えてくださった読者様も大丈夫かと。（多分）

この紅蓮天照烈士之神楽、自分が中学生（厨二病末期患者認定済）の時に自己満足に書いていた小説のリメイクであり、題名や細かな設定などは、そこから引き継いでおり、完全なオリジナル・・・と言いつける自信は余りありませんが、自分自身、完全なオリジナルと思っています。

少しでも多くの読者様に楽しんでもらえたり、感動してもらえたりできる作品を作っていきたいと、日々精進していますので、どうかよろしく願います。

前書き、後書きと長々申し訳ありませんでした。

それでは、どうぞ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0547ba/>

紅蓮天照烈士之神楽

2012年1月1日03時27分発行